

会 議 録

会議の名称	第1回総合計画審議会
開催日時	令和7年10月27日(月) 午後1時30分から午後3時20分まで
開催場所	和泉市役所3階 3A・3B会議室
出席者	<p>【委員(敬称略)】 山本 秀明、浜田 千秋、森 久往、坂本 健治、飯阪 光典、坂上 宏行、赤城 賢雄、 定 孝昌、吉水 智紀、上西 恵子、佐藤 正浩、永田 就三、合田 耕三、冢瀬 徳夫 水上 啓吾、武石 英士、神谷 雅之、木口 祥孝、柳 伸之介 (欠席)合田 研吾、辻本 法子</p> <p>【事務局】 辻市長、前田市長公室長、門林政策企画室長、福田企画経営担当課長、田嶋政策・資産マ ネジメント担当課長、奥山総括主幹、中総括主査、江口主査、岸尾主任、山口人事課長、左 海財政課長、有限責任監査法人トーマツ 黒山</p>
会議の議題	1. 開会あいさつ 2. 委員の紹介 3. 会長・副会長の選出 4. 案件の諮問 5. 今後のスケジュール及び審議の進め方について 6. 各計画素案の審議 ① 第5次和泉市総合計画の振り返り ② 第6次和泉市総合計画(素案)について ③ 第3期和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について 7. その他
会議の要旨	水上委員を会長に、辻本委員を副会長に選出した。 第6次和泉市総合計画(素案)、第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)を諮問した。 諮問内容につき事務局から説明を行い、質疑応答を行った。
会議録の 作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
会議録の 確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
その他の 必要事項	傍聴者 1名

<p>事務局</p> <p>辻市長</p>	<p>(事務局【政策企画室】から、資料の確認、会議の公開等について案内を行った)</p> <p>【1. 開会あいさつ】</p> <p>本日は、ご多用にも関わらず、第1回和泉市総合計画審議会にご出席いただき誠にありがとうございます。皆様方には、平素より、政策におきましても大変温かく力強いご支援を賜っており、重ねて御礼申し上げます。また、今回の総合計画審議会の委員ご就任に当たりましても、心よくお引き受けいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。</p> <p>総合計画とは、和泉市の進むべき大きな方向性を決める最上位の計画でありまして、本市では、平成28年に第5次和泉市総合計画を策定し、これまで、市立病院や消防庁舎、市役所の建設や、子ども医療費助成の対象年齢の拡大、奨学金返還支援事業の創設など、ソフト・ハード両面において本市の将来を見据えた取組を進めてまいりました。しかしながら、全国的な「少子高齢化・人口減少」、また、東京一極集中の是正、DXの推進など、大変大きな課題が山積しているところでございます。それに加え、近年頻発する大規模災害への対応力強化は、市民の安全・安心を守る喫緊の課題として重要性はさらに増しております。</p> <p>第5次総合計画は、今年で最終年度となりますが、様々な社会情勢の変化と課題に対応し、魅力あるまちづくりと持続可能な行財政運営の確立をめざすため、令和8年から新たにスタートを切るべく、第6次総合計画の策定に向け取り組んでいるところでございます。</p> <p>また、総合計画と並行し、本市の行財政改革プランである「和泉創発プラン」につきましても、本年度で終了し、これを引き継ぐ「和泉創発プラン2.0」の策定を進めております。創発プランにつきましては審議対象ではございませんが、創発プランに記載した事業を含んだ第3期和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては審議いただく予定となっております。皆様のご意見を踏まえ、これらの計画を練り上げ、それぞれの施策をひとつずつ着実に実施していくことで、和泉市の未来を確かで、輝かしいものにしてまいりたいと考えております。</p> <p>委員の皆様方には大変ご負担をおかけすることになりますが、この先の8年間を描く総合計画でございますので、皆様のご見識とご経験を踏まえ、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>【2. 委員の紹介】</p> <p>(事務局【政策企画室】から、各委員の紹介を行った)</p>
-----------------------	--

司会	<p>【3. 会長・副会長の選出】</p> <p>○会長、副会長の選出については、委員皆様の互選により行うため、立候補またはご推薦をお願いしたい。</p> <p>(「事務局案は？」の声あり)</p>
事務局	<p>○大変僭越ながら事務局案を説明する。会長は、地方財政や社会保障、社会インフラ整備に関し幅広いご見識をお持ちの大阪公立大学の水上委員に、副会長は、地域活性化やマーケティングに幅広いご見識をお持ちで、昨年度、本市の外部評価委員会の委員長を務めていただいた桃山学院大学の辻本委員にお願いしてはと考えるがいかがか。</p> <p>(「異議なし」の声あり)</p>
水上会長	<p>○皆様のご承認により、会長を仰せつかりました。円滑な会議進行を心がけてまいりますので、委員皆様のご協力をよろしくお願いしたい。</p> <p>【4. 案件の諮問】</p> <p>(市長から、総合計画審議会に対し、第6次和泉市総合計画等の策定に係る案件の諮問を行った)</p> <p>【5. 今後のスケジュール及び審議の進め方について】</p> <p>(事務局【政策企画室】から、資料1及び2に基づき説明を行った)</p> <p>(一同意見なし)</p> <p>【6.各計画素案の審議】</p> <p>① 第5次和泉市総合計画の振り返り</p> <p>(事務局【政策企画室】から、資料3に基づき説明を行った)</p> <p>(一同意見なし)</p> <p>② 第6次和泉市総合計画(素案)について</p> <p>(事務局【政策企画室】から、資料4、5に基づき説明を行った)</p>
永田委員	<p>○将来都市像の「ちょうどいい」表現はやや抽象的な印象を受けるが、具体的にどのような将来を想定し、どのような想いを込めているのか。</p>
事務局	<p>○「ちょうどいい」という表現は主観的であるが、市民ニーズの多様化に加え、総合計画素案の中では同様に「ウェルビーイング」という主観的な個人の幸福感も取り上げてい</p>

	<p>る。多様なニーズや価値観のある中で、誰もが幸福を感じ、誰もがちょうどいいと思えるようなまちづくりをめざしていきたいという想いを込めている。若者や高齢者といった特定の世代にフォーカスするのではなく、それぞれの世代が「ちょうどいい」と感じるようなまちづくりをしていきたい。</p>
永田委員	<p>○「多様性を認めるまち」といったイメージか</p>
事務局	<p>○様々な考え方やニーズに応じられるように施策を打っていく必要があると考えている。</p>
山本委員	<p>○資料4の人口推計はどのような根拠で算出しているのか。</p>
事務局	<p>○人口推計については、住民基本台帳を基に、コーホート要因法を用いて推計した。</p>
山本委員	<p>○今後の人口の傾向は、より下位推計に近い形で推移していくという理解か。また、上位推計、下位推計とはそれぞれどういったものか。</p>
事務局	<p>○上位推計は、国が定める人口目標を勘案し、高い合計特殊出生率でかつ転入出が均衡する前提での推計である。下位推計は、策定当時最新の平成25年の合計特殊出生率1.37を維持し、20歳代が転出超過となる場合の推計である。結果として、本市の人口推移は下位推計に近い結果となったが、人口減少を食い止めるのはもちろんのこと、人口減少を受け止めた施策も必要であると理解している。</p>
山本委員	<p>○出生率は基礎自治体の努力だけではどうしようもないものと考えているが、第6次総合計画を策定するにあたっては、人口減少を抑えるための総合的な戦略を組み、市内外の方々に和泉市を選んでもらうことが、人口減少を抑えるために必要である。人口に関する数値目標を設定するのであれば、この点にも留意いただきたい。</p>
事務局	<p>○総合計画素案のP11で、出生数や社会動態の数値をKGIとして掲げている。いただいた意見は事務局にて検討する。</p>
山本委員	<p>○地域特性について、本市ではこのような4つの圏域分けを行ってきたが、中部地域はかなり広く、地域特性という括りでは表すことができないと考える。</p>
坂本委員	<p>○同じく地域特性について、総合計画素案P9の記載では、それぞれの地域の人口分布が分からず、地域の課題を示すことができていないと感じる。とくに南部地域においては、人口減少というより、高齢者が増加していき、福祉施策が追いつかなくなることが課題である。地域特性の中で、高齢者が多い、生産年齢人口が少ないといった人口分布を示すべきと考える。</p>
事務局	<p>○ご指摘の地域ごとの人口分布について、市のホームページで10年間の地域別の人口推移を公表しているが、次回審議会にて可能な限りお示しする。地域ごとの人口推計を示すことは難しいが、これまでの各地域の人口推移など、できる限りお示しできるよう、事務局にて検討する。</p>

坂本委員	○審議会でデータを示すだけでなく、地域特性として計画に記載してほしい。本市全体の課題として地域ごとの特性が挙がってくるため、総計資料として計画に掲載されることで非常に伝わりやすくなる。
神谷委員	○総合計画の第1～3章の、市の大きな方向性を示す章は非常に重要であるため、可能であれば次回も議論したい。永田委員の意見にもあったとおり、将来都市像の「ちょうどいいまち」は抽象的で分かりづらい。将来都市像が抽象的であると、具体的な施策がどう組み立てられるのかも伝わりづらい。 ○「住めば住むほど好きになる」というフレーズは、本市在住者のみを対象にしているような内向きな印象を受ける。もう少し市外の住民から選ばれるという要素をフレーズに盛り込むべきだ。 ○他市の将来都市像のフレーズでは、挑戦、チャレンジといった前向きなキーワードが多いが、今回の将来都市像には含まれておらず、より前向きなフレーズを打ち出してほしいと感じる。 ○総合計画素案の第4章以降では、KGIという言葉が使われているが、KGIというのはより大きな目標に対して用いるものであり、ここに記載されているものはKPIと呼ぶべきではないか。
事務局	○今回の将来都市像のフレーズは、市民アンケートや学識ヒアリング、庁内での策定委員会、特別職へのヒアリングなどを経て作成したものである。ここから大きく変更するというよりは、委員からご指摘のあった点が分かりやすく伝わるよう、しっかりと説明していきたい。 ○将来都市像の検討にあたり、大阪府内他市の将来都市像フレーズの整理も実施したが、本市のようなフレーズもあれば、成長といったキーワードを打ち出すものもあり、都市の性格によって変わる部分であると感じる。 ○OKGIについては、KGIにしては数が多く、中間目標に見えるというご指摘と理解した。こういった表現であれば伝わりやすいか、事務局にて検討する。
柳委員	○総合計画、総合戦略の8年間という期間設定にはこういった理由があるのか。
事務局	○創発プラン2.0の期間を市長任期と合わせ4年とした。これに合わせ、総合計画や総合戦略も4の倍数の期間とすることとした。なお、他市においても、計画期間を4の倍数にする事例が散見される。
柳委員	○8年というのは長期間であるが、その間の計画の更新や修正は行うのか。
事務局	○総合計画に関しては計画期間内に見直しを行う予定はないが、創発プランはKPIの達成状況を踏まえ、見直しを行う予定である。各事業に、KPIに加えて見直し基準という指標を設け、指標の達成状況が芳しくない事業を適宜見直していく。
山本委員	○将来都市像は非常に重要である。先ほども意見があったように、「住めば住むほど好きになる」というフレーズは転出を抑制する方針であるという印象を受けるが、市外の方々から本市を選んでもらえるようにするという視点も重要である。将来都市像のフレ

	ーズによってめざす姿が明確に分かるようにしてほしい。
水上会長	○「ちょうどいいまち」であり続けるというのは非常に難しく、そのためには成長も必要になる。現時点の案は各委員からいただいた視点も包含しているとは考えるが、それがより伝わるように検討してほしい。
神谷委員	○総合計画素案の P5 の時代潮流について、物価高騰は喫緊の課題としては重要だが、潮流としては短期的であると感じる。デフレ時代からインフレに突入しているという記載の方がよいのではないか。 ○P8 の横断的な視点のうち、協働によるまちづくりの後段の記載の「大学をはじめ、様々な企業や団体と連携しつつ」という部分には、市民というワードも加えたほうがよいと思われる。市民個人もまちづくりに参加するという観点は重要である。
事務局	○いただいた意見を踏まえ、次回審議会にて回答する。 ③ 第3期和泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)について (事務局【政策企画室】から、資料6、7に基づき説明を行った) (一同意見なし) 【7. その他】 (事務局【政策企画室】から、次回審議会の開催日等の事務連絡を行った)
	以 上